

健康のしおり

皆さんの健康のお役に立つように、このようなパンフレットをつくりました。
是非ご覧下さい。

失明率の高い2つの病気

失明に至る可能性のある病気は多々ありますが、近年日本で失明率第1位と言われているのが緑内障です。よく白内障と勘違いされることが多い病気ですが、白内障が手術で完全に治すことができるのに対して緑内障は加療しても決して治すことができません。

緑内障とは脳から眼球につながる視神経線維が徐々に委縮していき、視野（見える範囲）が進行性に失われていく病気です。

委縮した視神経線維は二度と復活することはありません。つまり緑内障が進行して視野が一度失われていくと回復することはありません。更に進行して視野が全部障害されれば失明状態となりうる病気なのです。

治療の基本は点眼薬にて視野障害の更なる進行を抑制することです。緑内障の難点は、自覚症状がなかなか現れないことです。自分で視野が悪いということに気付いた時点では相当視神経線維の委縮が進行した状態です。このため緑内障において最も大切なことは早期発見早期治療です。

早期発見の為には一般論として40歳以上で眼圧検査、眼底検査、視野検査といった精密検査を眼科にて行う必要があります。また遺伝性の緑内障も報告されており、血縁者に緑内障患者がいる方は40歳未満でも眼科で検査を受けておくことが大切です。

次に失明率第2位と言われているのは糖尿病網膜症です。この病気は名前の通り糖尿病に罹られている方に合併することがある網膜（眼球内部の光を感じる膜）の病気です。病気の進行と共に網膜に出血や浮腫（腫れ）を生じ、やがて眼球内部全体に出血が生じることで大きな視力障害をもたら

し末期には網膜剥離や緑内障を合併して失明に至ることがあります。

治療の基本は糖尿病そのものの治療、すなわち血糖コントロールです。病状によってはレーザー治療や手術を要します。この病気も初期の段階では殆んど症状がなく、見えづらさを感じた頃にはかなり病気の進行した状態にあります。そこから慌てて治療しても病気の進行を抑制できず、何度も手術を行った挙句に最後は治療を諦めざるをえないということが起きやすい病気です。この病気の大切なところは糖尿病と診断された方すべてが漏れなく眼科に受診することです。残念なことに長期間糖尿病治療をされているものの一度も眼科受診されていないという方が多いのが現状であります。あるいは内科医からは眼科受診を勧められていても患者さん自身が受診しないケースも散見されます。

また一度眼科受診して異常が無いと言われ、その後定期的に眼科受診しないことも大変危険なことであります。眼科で異常無いといわれてもそこで安心せず最低でも1年に1回は眼科の検査をすることが重要と考えられます。

また血糖コントロールの不良な方は特に悪化の可能性が高いので眼科医の指導に従うことが大切です。

以上日本での失明率第1位と2位と言われる病気について一部ご紹介致しました。失明することは、患者本人のみならず家族や周囲の人にとっても大きな悲しみをもたらします。その恐怖は健康な人には想像つきませんが、その場でそっと両眼を閉じてみれば容易に体験できます。今一度眼の健康にもお気遣いをなさってください。